

なのみ通信



東小田小学校 学校通信

令和元年5月14日

NO 6

文責 校長 宮崎春美

☆「スマホが学力を破壊する」!?

表題の本の著者である東北大学加齢医学研究所所長の川島隆太教授が、新たな研究結果を公開しました。

〈平成29年度 小5～中3のスマホ所持者2万6000人を対象にした調査結果〉

○「インスタントメッセージ」の使用が子どもの学力低下に最も影響する。

○4教科(国語・社会・算数・理科)の平均偏差値を見てみると

LINEを全く使用しない・・・50.8 使用が1時間未満・・・50.2

使用が1～2時間・・・47.7 使用が2～3時間・・・45.1

使用が3～4時間・・・43.0 使用が4時間以上・・・40.6



〈5歳から18歳の224名の子どもを対象に脳の発達をMRIで観察〉

○インターネットの習慣が多い小児は、そうでない子どもに比べて前頭葉や頭頂葉、側頭葉、小脳を含めて、左右の大脳皮質の体積があまり増加していない。

○脳の奥深いところの、神経細胞から情報を送る電線役を持つ白質の体積もあまり増加していない。

※つまり、インターネット習慣の多い子どもたちは、脳の外側も内側も悪い影響を受けているのである。



〈スマホと学力『小中7万人調査』〉

○スマホを触っていなくても近くに置いておくだけで勉強のパフォーマンスが下がる。

※友だちからLINEが来たらすぐに返信しなければという意識が働き、勉強に集中できないからだという説がある。

真偽の程は分かりませんが、大変気になる調査結果ではあります。とはいえ、今更、スマホもインターネットも全く切り離れた生活というのは考えられない状況です。ただ、生活リズムをくずさないためにきちんとしたルールを作る事や、スマホやインターネットを使う際のマナーや注意事項をしっかり指導する事は、保護者と学校が連携して取り組むべき事だと改めて感じました。

また、ゲームの使用についても同様に非常な危機感を持っています。5月8日から西日本新聞で「リアルはどこに」～ゲーム依存を考える～という記事が連載されています。もしお読みになりたい方がありましたら、学校までご連絡下さい。コピーをお渡します。

同記事に「ゲームへの依存度が分かるセルフチェック項目」が載っていましたので、参考にしてください。